学校だより　第４２５号　令和５年　１１月号

牧小だより

子供のよさを見つけ、引き出し、つないで拓く

↑行事写真を
ご覧いただけます

■教室から聞こえる「ありがとうございました」の声
閉式の言葉のあとにも聞こえる「ありがとうございました」の声

子供たちに伝えることがあるとき、給食の時間に放送を使って話をします。１０月中旬に来客があり、子供たちの学習活動の様子を見ていただきました。ほめていただいたことを放送で伝えて終わろうとすると、１年生の教室（放送室の一番近くの教室）から、「ありがとうございました」と聞こえてきました。それも、とても大きな力強い声です。うれしくなって、わたしからも放送で「『ありがとう』が聞こえたよ、ありがとうね」と伝えて放送を終えて廊下を歩いてくと、今度は２年生の教室からも「ありがとうございました」と言われ、さらに歩いて行くと隣の３年生の教室からも「ありがとうございました」と言われ、くすぐったいやらうれしいやら。２階の廊下を歩いたらもっと聞かれたかもしれません。

１０月には前期終業式、後期始業式があり、最近では運動会に向けて開会式、閉会式の練習をしています。その閉式の言葉の後にも、子供たちは「ありがとうございました」と言います。これまでにないことだったので、職員は意表を突かれています。フォーマルな場では言わなくてよいことをいつかは教えようと思いますが、校内だけの場では黙っています。子供が、言いたい、言おうと思ったから発するのですから、こんな子供の自発の姿はほめたいくらいの姿に見えます。

いいなと思ったら、すぐに真似るところが子供のよいところです。こんな気持ちが、子供たち自身のものの見方を広げ容量を大きくさせ、自ら変容していく力につながると思います。多様な考え方、多様な見方をする力を付け、自ら将来を生きやすくしていく力につながると思います。ならば、子供たちにはたくさんの経験をさせよいものをたくさん見せたいものです。

地域の方が校庭で実ったぎんなんを下処理してくださり、子供たちにどうぞと届けてくださいました。通り過ぎる方が「ご苦労様」と落ち葉掃きの労をねぎらってくださいます。どれもこれも、子供たちに気付かせたい学びの材料です。

大きなキンモクセイの木がよい香りを放っています。秋の実りを感じる中、運動会の練習をする子供たちが大きな声で仲間を応援したり自分たちで準備や片付けをしたりしています。チームが最下位になっても応援する声が聞かれます。競技中に応援する姿が見られます。子供たちがコロナ禍以前とは違う形の運動会を形作っているように感じます。一方で、職員は競技が安全に進むようにやり方や道具を工夫しています。朝はすぐに練習が始められるように準備をし、放課後は不足の道具を準備したり修繕したりしています。久しぶりに綱引きをプログラムに入れますが、経験値のない子供たちが不測のけがをしないように、ルールや並び方や職員の立ち位置を確認し練習しています。子供たちがコロナ禍で我慢した分を取り戻せるようにしてやりたいという一心です。

こんな子供たちも、職員も、わたしは誇らしい気持ちです。

■２０２３年度は牧小学校創立１５０周年　その⑬

ご案内しておりました１０月１４日（土）は岐阜総合学園高等学校太鼓部の演奏会はやむを得ない事情で中止となり、楽しみに待っていてくださった方には申し訳ありませんでした。演奏会に向けて５年生が歓迎の横断幕を準備していましたので、後日、太鼓部の皆さんに楽しみにしていた気持ちを伝えようと郵送しました。

その分をぜひ運動会で楽しんでいただけたらと思います。今年の運動会は、縦割りによる全校種目を増やしています。「牧小学校だからできる」と言うのがぴったりの運動会です。子供たち対大人の玉入れもあります。是非、誘い合っておこしください。

校長　古市諭香